

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年8月24日
タイトル	蓮池幹線用水路で自然体験と出前授業！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年7月16日（土）福山市立西深津小学校で「蓮池川自然体験」と環境学習が開催されましたので、蓮池川自然体験の様子を取材し、環境学習で農業用水路について出前授業をしました。

福山市立西深津小学校のある西深津学区は、西深津学区まちづくり推進委員会が主催で毎月「子ども土曜クラブ」を実施しておられ、子ども達が学区内にある蔵王山や校舎の目の前を流れている蓮池川（蓮池幹線用水路）という故郷の自然とふれあうことや地域住民と交流することで、子ども達が自然や地域に興味を持つよう、取組みをしておられます。

まず朝8時より「蓮池川自然体験」として、蓮池川（蓮池幹線用水路）へ船を浮かべ西深津小学校の子ども達やPTAの保護者、西深津学区のまちづくり推進委員会・町内会連合会など地元の住民の方が集まり子ども達の船上体験が始まりました。

安全を確保するため、子ども達にはライフジャケットを着用させ、乗船前に西深津公民館の館長さんから「急に立ちあがったり、覗き込むと転落するので注意しましょう。」と話をされました。

船には、町内会の方が船頭として乗船され、子どもと保護者をあわせて約10人が一緒に乗りました。子ども達は初めて船に乗ってオールを漕いだり、川面から見える景色を楽しみました。2日前の集中豪雨の影響で水位が高くなっていて、橋の下を潜る時は、頭を低くして通過しました。橋の裏側を間近で見ると貴重な体験でした。また、船に乗ることで水面が近くなり、水の中にいる生き物や水草に小さな花が咲いていることなど、普段では見られない物を見ることができました。船上体験は5回行われ、約50人が参加されました。



楽しかった。オールを漕ぐのが難しかった。ゴミが浮いていた。水が濁っていて汚かった。亀や鯉が見えた。水草が多かった。イトトンボがいた。などいろんな自然体験の感想を聞きました。天気がよくて大変暑い日でしたが、船の上は涼やかで水の恩恵を感じることができました。

つぎに10時30分からは、西深津小学校の理科教室で環境学習をしました。1つのテーブルに大人と子どもと一緒に7、8人座り9つのテーブルが一杯になりました。校長先生から「今日は朝から、町内会の皆様のご協力により船上体験をすることができました。とても楽しくていい思い出になりました。それだけで終わりにせず、しっかり環境についても学んで帰りましょう。」と話されました。

はじめに水土里ネット福山市より農業用水路である「七社頭首工用水について」と「転落防止」について出前授業をしました。

蓮池川の水が芦田川から流れてきていることや、蓮池川は人工的に作られていること、日本全体での農業用水路の長さが地球10周分もあること、蓮池川の水は下流の手城町の田んぼに行き渡っていることを話しました。また、福山市内は七社用水が張り巡らされており、大雨の時は七社頭首工の取水を止めるが、雨水が用水路へ入りその排水に苦慮していることや、水土里ネット福山が除塵機や排水機など施設を管理し、利水調整と治水に努めていることを話しました。農業用水路への転落防止の呼びかけでは、雨が降っている時は勿論のこと、天気の良い日でも雨の後は水量が多く危険なため、十分気を付けるよう話しました。子ども達には少し難しいことも話しましたが真剣な表情で聞いてくれました。

続いて、福山市の環境啓発課から芦田川の水質汚染を啓発するビデオの上映があり、その後、水質検査（パックテスト）をされました。パックテストは、水道水に味噌、砂糖、ジュースをとかしたものと芦田川下流の水の4種類を用意しておられました。急遽、蓮池川の水を加えていただくことをお願いし、公民館長さんをお願いして蓮池川から水を汲んできていただきました。子ども達は、それぞれの水がきれいかどうか予想をたててからパックテストをしました。



蓮池川の水は雨のため少し濁っていて子ども達は「きたない」と予想していましたが、実験結果は「ややきれい」に、味噌やジュース、砂糖をとかしたものは「よごれている」や「きたない」という結果になり一見きたなく見える川の水の方が「きれい」という現状を学びました。



実験結果に子ども達はびっくりし、特に多くの子どもがジュースはおいしいしから「きれい」と予想していたのに、少しの量でも水質が悪くなることが分かりました。この結果によって、人がおいしいからといって環境にやさしいとは限らないこと、ジュースや味噌汁なども残して捨てると水質が悪化し、元のきれいな水にするために大量の水が必要となることが分かりました。

最後に町内会連合会長から「先ほどの実験で蓮池川の水がきれいなことがわかりました。これからもひとり一人がゴミを捨てたりしないようにしましょう。」と挨拶されました。

最後は、今年福山市が「100万本のばらのまち」を達成したことから、参加者へばらの苗が配布され、出前授業を終わりました。

この度の取材から農業用水の管理に関わる水土里ネットとして、水質保全を含めたかんがい用水の安定確保に向けて地域住民との共生を図ってまいりたいと考えており、子ども達をはじめ、地域住民の方にも広く農業用水の役割や施設の管理の重要性を理解していただくよう、21世紀土地改良区創造運動に取り組んでいきたいと思ひます。